



No.40 (2012.10)

地域と結ぶ

順天堂大学練馬病院ニュース



地域の皆さまの
心と身体のおアシスで
ありたいと願っています。
何なりと
ご相談ください。

新任科長紹介

脳神経内科 前任准教授 三輪英人

このたび、順天堂大学練馬病院「脳神経内科」に赴任いたしました三輪と申します。

脳神経内科では脳梗塞、認知症、パーキンソン病などの脳の病気をはじめとして、末梢神経や筋肉の病気なども幅広く診療しています。病状を把握し、必要に応じて脳神経外科、救急・集中治療科、整形外科・スポーツ診療科やリハビリテーション科などの他科とも連携して、最適な治療をご提供できるよう努めてまいります。頭痛、物忘れ、めまい、しびれ、歩行障害などの症状でお困りの方はどうぞ気軽にご相談ください。



前任准教授 三輪 英人

妙手回春 (みょうしゅかいしゅん)

意味：手を触れれば春になるかのような、医師のすごい腕前。敏腕の医師により、病気が良くなること。

順天堂3代目堂主・佐藤進は、1895年日清戦争中に狙撃された清国全権大使・李鴻章の治療にあたり、これを見事に治療し、無事に和親条約を締結した李鴻章から進に贈られたものが「妙手回春」の扁額です。

扁額と同時に称号「国手」(意味：国を医する名手。名医。)を贈られ、この時の「国手」が本学校歌の歌詞となっています。



1号館2階 初診受付前

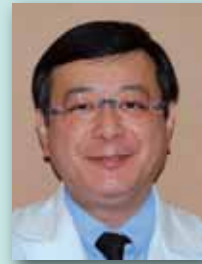


各種がんの冊子を用意しています

がん治療センター センター長 花澤喜三郎

国立がん研究センター（がん対策情報センター）で発行されている冊子で各種がんの検査や治療等の一般的な流れなどがわかりやすく記載されています。

地下1階がん治療センター内の患者・家族交流会室に設置してありますので、ご自由にお取りください。



センター長 花澤喜三郎

消化管、肝臓、胆のう、すい臓	胃がん、食道がん、大腸がん、肝細胞がん、すい臓がん、胆のうがん、GIST(消化管間質腫瘍)
脳、神経、口、のど	髄膜腫、聴神経鞘腫、咽頭がん、舌がん、脳腫瘍、咽頭がん、甲状腺がん、神経膠腫(グリオーマ)
胸部	中皮腫、胸腺腫と胸腺がん、肺がん
血液、リンパ	悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性骨髄性白血病
女性	子宮頸がん、卵巣がん、子宮体がん、乳がん
泌尿器・男性	腎盂尿管がん、腎細胞がん、前立腺がん、膀胱がん、精巣腫瘍
皮膚、筋肉など	悪性黒色腫、乳房外パジェット病、悪性線維性組織球腫、軟骨肉腫

他にも、「がんと療養」「社会とがん」シリーズをご用意しております。



麻 酔 科 ・ ペ イ ン ク リ ニ ッ ク の 紹 介

麻酔科・ペインクリニック 先任准教授 菊地利浩

麻酔科・ペインクリニックの診療活動は、手術室での麻酔管理と外来でのペインクリニックの2本立てです。現在、10名のスタッフで年間3,000例の手術麻酔管理と1日50～70名のペインクリニック外来診療を行っています。

手術の麻酔管理は、手術の内容や患者さんの身体の状態にあった麻酔方法を選択して麻酔を行うと同時に、患者さんそれぞれの身体の問題点をうまくコントロールして、安全に手術が終えられるようにすることです。また、同時に術後の痛みの管理をすることも我々の大事な役割です。手術内容や患者さんの身体に合った方法で、なるべく痛みを少なくして快適な術後が過ごせるように努力しています。

ペインクリニック外来では、様々な病因で起こる痛みの治療を行っています。腰痛や椎間板ヘルニアによる神経痛、帯状疱疹後神経痛などの慢性疼痛が主な対象疾患です。神経ブロック法を中心に、薬物治療やリハビリテーション療法も取り入れた治療を行っています。

また、緩和ケアにおける痛みのコントロール役として、深く関わっています。メンタルクリニックの医師や看護師、薬剤師らとチームを作って、がん性疼痛と闘う患者さんのサポートを行っています。



脊椎麻酔を行っているところです。



エックス線透視下神経ブロックをしているところです。

外来担当医



准教授 田邊 豊

我々の仕事は、これから手術に立ち向かう患者さんや、慢性的な痛みを抱えている患者さんの色々な面のサポートです。手術を受けられる患者さんには、手術前に麻酔の説明をさせていただいています。



先任准教授 菊地 利浩

また、慢性的な痛みでお悩みの患者さんは、一度ペインクリニック外来で受診されることをお勧めします。

なお、当科外来は完全紹介予約制となっていますので、受診ご希望の際はかかりつけの医師にご相談ください。



全身麻酔を管理しているところです。



放射線検査について

放射線科 前任准教授 尾崎 裕

画像診断検査には、エックス線撮影、CT、超音波、MRI、透視、核医学、血管造影検査など様々な検査法があり、それぞれに特長を持っています。このうち超音波とMRI検査以外は人体を画像化するために放射線を用いており、いくらかの放射線被ばくが生じます。これを、**医療被ばく**と呼びます。



前任准教授 尾崎 裕

図1 がん死亡率に及ぼす被ばくの影響

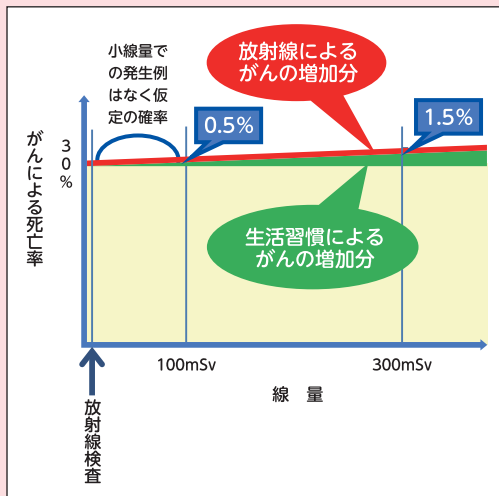
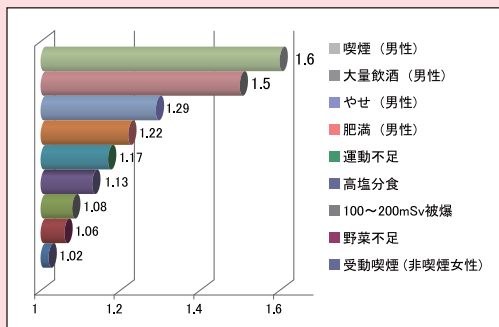


図2 生活習慣と発がんのリスク



当院では、**医療被ばく**が必要最小限になるよう常に心がけておりますが、画質不良で診断出来ないようでは本末転倒になってしまいます。発がん性を確率論で言い出せばどんなに小さくてもゼロにはなりません(図1)が、ほかの生活習慣よりもはるかに小さな危険性と言えます(図2)。

院内で行われる全ての画像診断検査は、患者さんを診察した**主治医**が検査により期待される**便益**(診断情報により有効な治療を開始できる、もしくは不必要な治療をしなくて済む)と**危険性**(被ばくや検査・薬剤による副作用・合併症、検査をせず診断が出来ず手遅れになる、など)を十分考えたうえですべきか否かを判断し、ご説明のうえ納得していただいた場合に行っています。

従って、もし疑問がある場合は、しっかり**主治医**とお話しされてから検査をするか決められたら良いと思います。

順天堂醫院の歴史

大正時代の放射線科と最先端の放射線機器

ドイツの物理学者レントゲンが発見したのは、明治 28 年 12 月であった。このニュースは瞬く間に世界中に広がり、翌年に早くも日本で 4 人の学者がエックス線による写真撮影に成功している。

しかし、エックス線が医学の診断機器として使われるようになるのは、大正時代に入ってからであった。当院ではいち早く放射線科を開設して、ドイツ留学から帰国したばかりの藤浪剛一放射線専門医を招聘して、エックス線診療を開始した。

写真(1)は、大正 7 年頃のエックス線撮影場所である。放射線被曝を防ぐために、ものものしい防具を身につけている。写真(2)は、順天堂醫院放射線科の最新の MRI 撮影装置(平成 21 年)である。



(1)大正時代の放射線科



(2)最先端の放射線機器



順天堂大学医学部医史学研究室
特任教授 酒井シヅ

入院診療費のお支払いに クレジットカードが使えるようになりました。

ご来院の皆さまからのご要望にお応えしまして平成24年9月1日より、入院中のお支払いや退院時のお支払いでもクレジットカード及び、デビットカード(金融機関のキャッシュカード)がご利用いただけるようになりました。

ご利用可能なカード



※分割払い・リボ払いは、利用者のカードにより、ご利用詳細が異なる場合があります。

デビットカード



＜現金がなくてもその場で口座から引き落とし＞
左記のマークのあるキャッシュカードを提示し、暗証番号を入力すると利用した時点で口座から引き落としになります。現金と同じような感覚で使用することができます。

ご利用いただける場所と時間

2階 入院・退院受付窓口

平日	9:00～17:00
土曜(第2除く)	9:00～13:00

(時間外・日曜祝日は、お取り扱いできません。)

※ご不明な点や、ご質問等がありましたら、お近くの係員におたずねください。